



## 「外為短期投資家動向調査」結果

<第43回調査>

2012年12月25日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2012年12月11日(火)13:00~2012年12月18日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は639件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

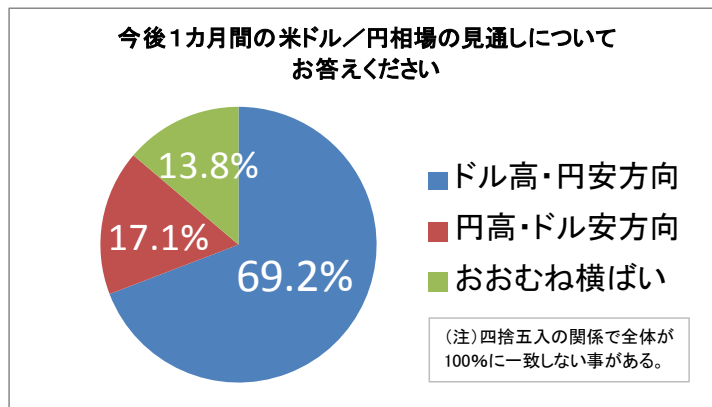
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第43回調査結果略報：7割近くがドル高・円安を予想】

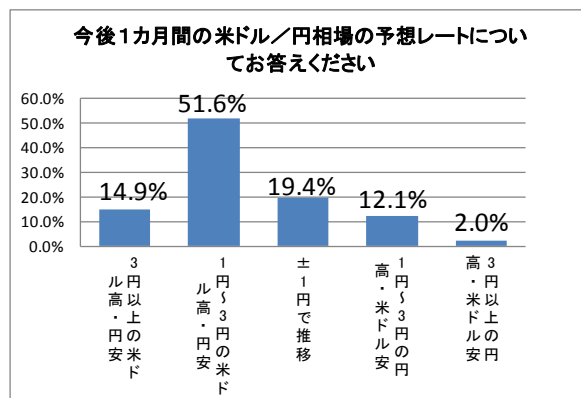
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が69.2%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は17.1%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+52.1%ポイントとなり、前月(+27.0%ポイント)に比べプラス幅が大幅に拡大した。調査期間中のドル/円相場が82円台から84円台までほぼ右肩上がりに上昇する中で、FX投資家はドル強気・円弱気予想に自信を深めたようだ。前回調査では予想DIのプラス幅がやや縮小するなど、自民党の安倍総裁が主張する「無制限緩和」などの実現性にやや懐疑的な向きもあったと見られるが、本邦衆院選後の円安・株高傾向を目の当たりにした事で、安倍新政権への期待が膨らんだものと推測される。  
 ※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円のドル高・円安」が51.6%と最も多く、次いで「±1円で推移」が19.4%、「3円以上のドル高・円安」が14.9%、「1円～3円の円高・ドル安」が12.1%、「3円以上の円高・ドル安」が2.0%の順となった。ヒストグラムの形状は大きくドル高・円安側に傾いており、半数以上のFX投資家が84円台から87円台(調査期間中の終値平均83.35円から推計)への円安推移を予想した事になる。なお、「3円以上の米ドル高・円安」を予想した割合が前月の4.7%から10%以上も増加している点は注目に値する。年末年始にさしかかるため参加者が減少し、米ドル/円の値動きも鈍りがちな時期ではあるが、例年とは違い、大幅高を予想するFX投資家も少なくないようだ。



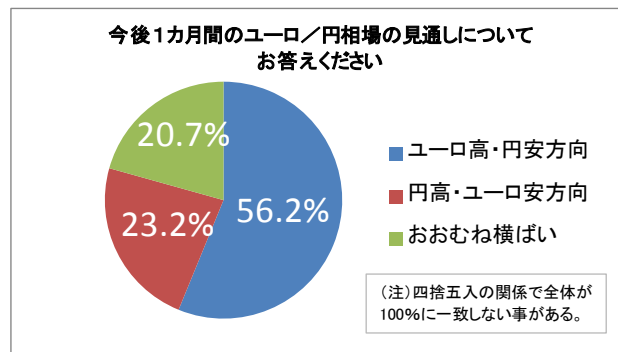
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が56.2%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が23.2%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は+33.0%ポイントとなり、FX投資家の相場観は再びユーロ強気・円弱気に転じた。なお、今回の予想DIは2009年10月の第5回調査以来の高水準である。調査期間中のユーロ/円相場は欧州債務問題に対する懸念が一服する中で、円が全面安の様相となったことから106円台から111円台まで大幅に上昇した。結果的にユーロ/円相場の見通しについては、多くのFX投資家が予想の修正を余儀なくされた格好だ。

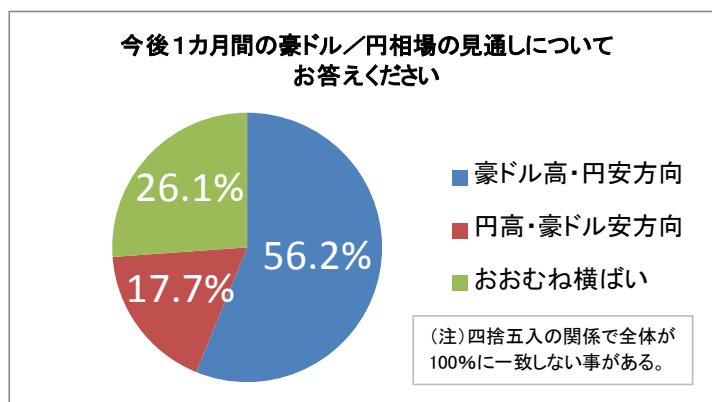
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が56.2%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は17.7%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+38.5%ポイントとなり、7カ月連続で豪ドル強気・円弱気姿勢を維持、予想DIのプラス幅も3カ月連続で拡大した。調査期間中の豪ドル/円相場は86円台前半から88円台後半まで上昇しており、当面はこうした上昇局面が続くと考えるFX投資家が増加しているようだ。安倍新政権の政策が一段の株高・円安に作用するとの期待が豪ドル高・円安予想を支えているものと考えられる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

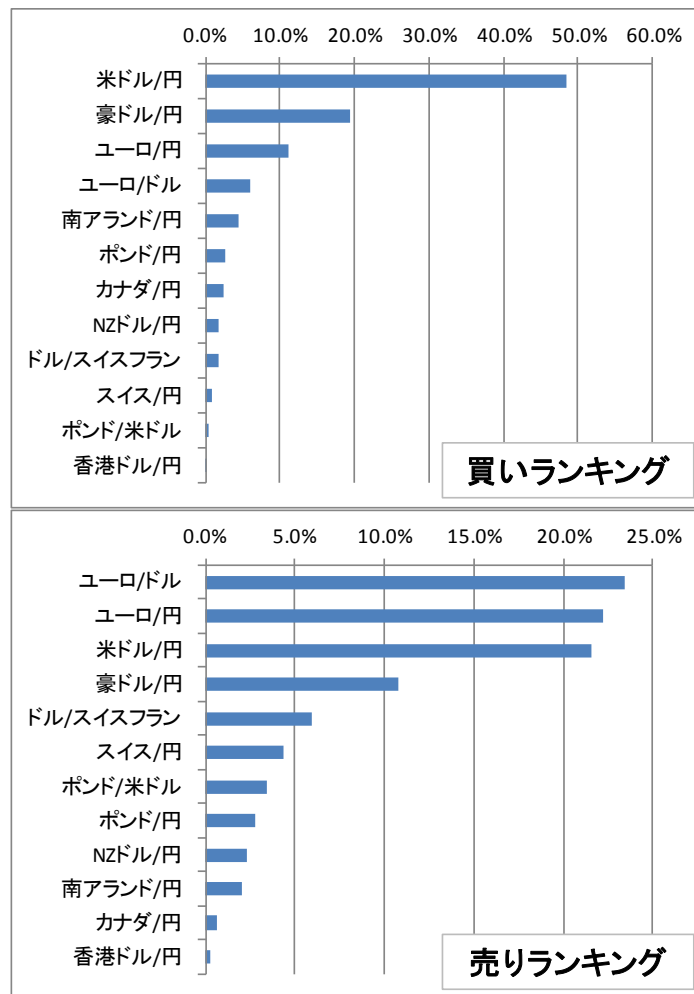


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(48.4%)、2位豪ドル/円(19.4%)、3位ユーロ/円(11.1%)、4位ユーロ/ドル(6.1%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/ドル(23.5%)、2位ユーロ/円(22.2%)、3位米ドル/円(21.6%)、4位豪ドル/円(10.8%)となった。「買い」で注目の上位2通貨ペアについては順位に変動はないものの、回答割合の格差は大きく広がった(前回調査では米ドル円42.4%に対して豪ドル/円は30.2%であった)。豪ドル/円がリーマンショック後の高値(90.00円)更新を視野に入れつつあるのに対して、米ドル/円の方が上値余地が大きい(リーマンショック後の高値は101.44円)と考えるFX投資家が多いという事かもしれない。また、「売り」で注目の通貨ペアでは今回もユーロ/ドルとユーロ/円がワン・ツーフィニッシュを決めた。問3でユーロ/円予想DIが2009年10月以来の高水準となった結果とはやや不整合性を感じるが、回答割合から見れば妥当な結果といえるだろう(問3で「円高・ユーロ安」を予想した割合は23.2%であった)。

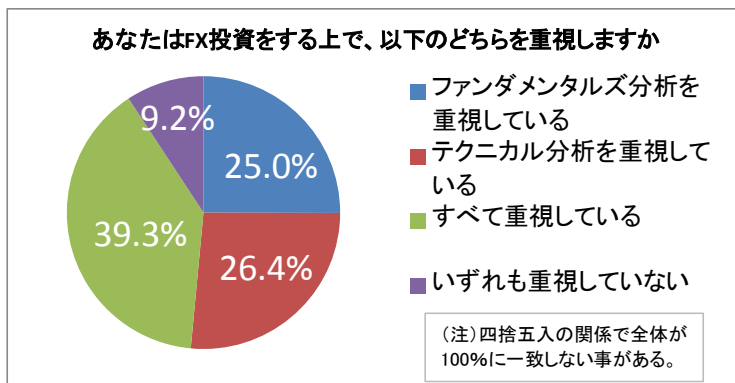


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

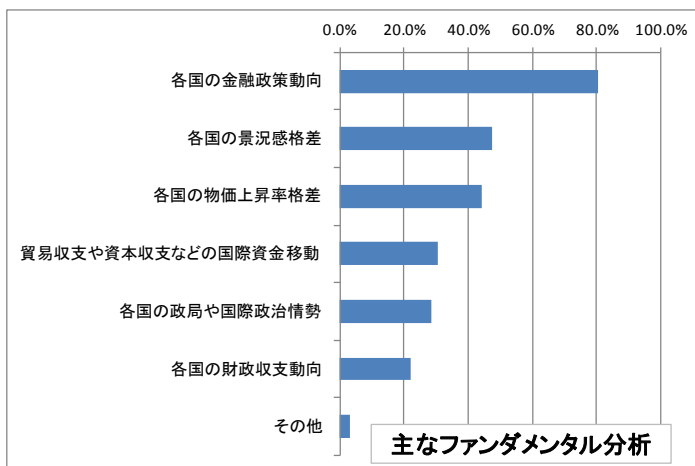
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が25.0%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が26.4%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が39.3%と引き続き最も多かった。調査期間中は、特に円絡みの通貨ペアにおいてほぼ一本調子で上昇するなど、テクニカル要因を無視するかのような値動きを演じる場面も見られた。それでも、本問の回答割合に目立った変化は見られず、ここ2年ほどは概ね同様の回答割合となっている(それ以前は「すべて重視」の回答割合がやや低かった)。FX投資家の相場分析手法は相場展開には左右されにくいと言えるだろう。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか? (いくつでも)**

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(80.4%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(47.4%)」、「各国の物価上昇率格差(44.3%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(30.6%)」、「各国の政局や国際政治情勢(28.7%)」、「各国の財政収支動向(21.9%)」、の順に続いた。「各国の金融政策動向」が前月に続き8割を超える回答割合を集めたが、調査期間中に行われた衆議院選挙で自民党が政権に復帰する事になり、日銀に対する金融緩和圧力が一段と高まっている事も影響していると思われる。また、欧州債務問題への懸念がやや薄らぐ中、「各国の財政収支動向」の回答割合が第37回調査時点からわずか6カ月で半分以下に低下している点も興味深い。

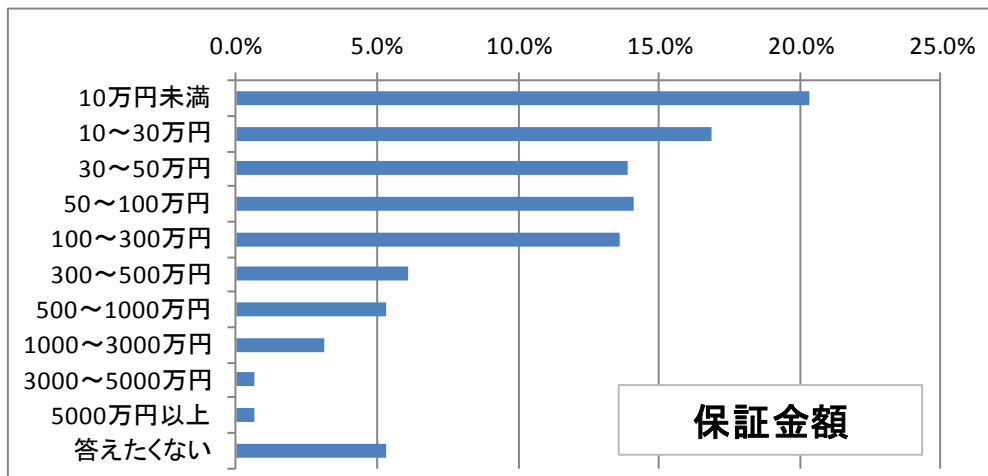


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。



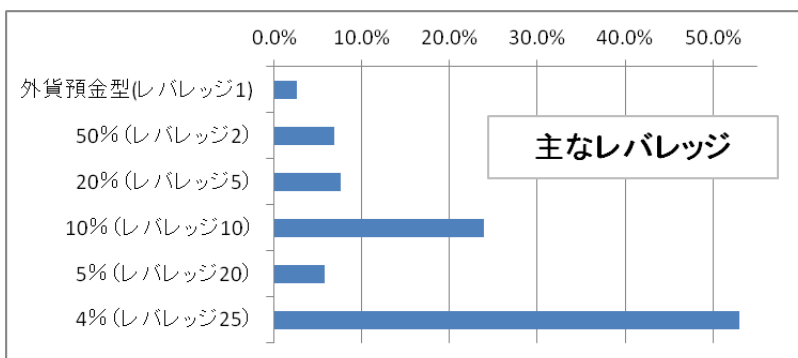
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が20.3%と最も多く、以下「10～30万円(16.9%)」、「50～100万円(14.1%)」、「30～50万円(13.9%)」、「100～300万円(13.6%)」と続いた。合算割合で65.2%ものFX投資家が100万円以下の保証金で取引を行っており、小額の保証金で取引が可能というFXの特性を良く表している。前年との比較では、300万円以上と答えた合算割合が増加するなど、やや保証金が増額されている様子も見られるが、前月との比較では大きな変化は見られない。足元では全般的な円安傾向が続いているとはいえ、保証金を増額して取引を拡大しているFX投資家は少ないのかもしれない。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が53.1%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が23.9%、「20%(レバレッジ5)」が7.7%と続き、以下「50%(レバレッジ2)」が6.9%、「5%(レバレッジ20)」が5.8%となった。「4%(レバレッジ25)」が2010年8月のレバレッジ規制施行後初めて50%を超えた事もあって今回調査におけるFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は17.3倍と、前月の16.3倍からやや上昇した。一部のFX投資家は、保証金を増額するのではなく、レバレッジを上げる形で取引を拡大させた可能性が感じられる。

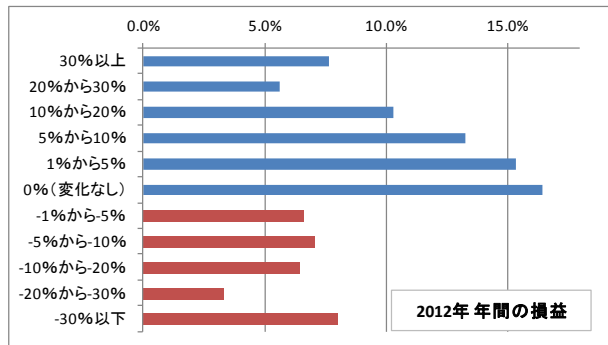


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

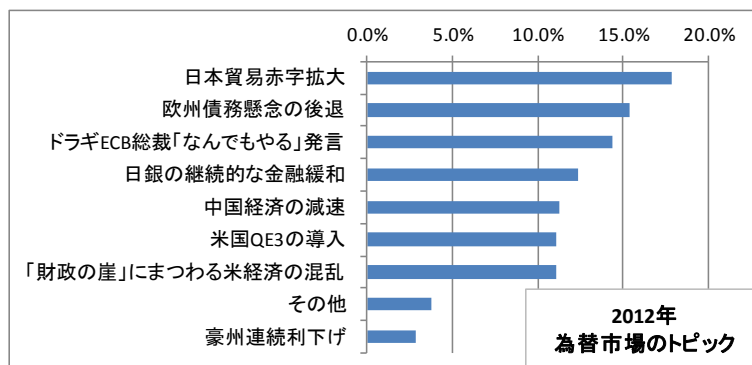
問10: 2012年1月～12月までの損益状況について投資資金の何%となっていますか。また、損益について最大の要因は何だと思われるかコメント欄にお書きください。

今月の特別質問項目として、2012年1月～12月までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか。と尋ねたところ、最も多かったのが「0%(変化なし)」の16.4%となり、次いで「1から5%(15.3%)」、「5から10%(13.3%)」、「10から20%(10.3%)」の順となった。利益が出たとする割合が合算で52.2%となり、損失が出たとする割合(31.3%)を20%ポイント以上も上回った。また、損益について最大の要因に関しては、利益が出たと答えた向きからは「足元の円安」や「長期保有のスワップ収入」との回答が多く挙げられた。過去の円高局面における円売り・外貨買いポジションの構築が功を奏したようだ。一方で損失が出たと答えた向きからは「不適切な損切り」との回答が圧倒的に多かった。損切りが遅かったとする向きも、早すぎたとする向きもいるなど、タイミングの拙さを挙げる声が目立った。FX投資家に限らず、損切りの上達は投資における永遠のテーマと言えるかもしれない。



問11: 2012年を代表する為替市場のトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)

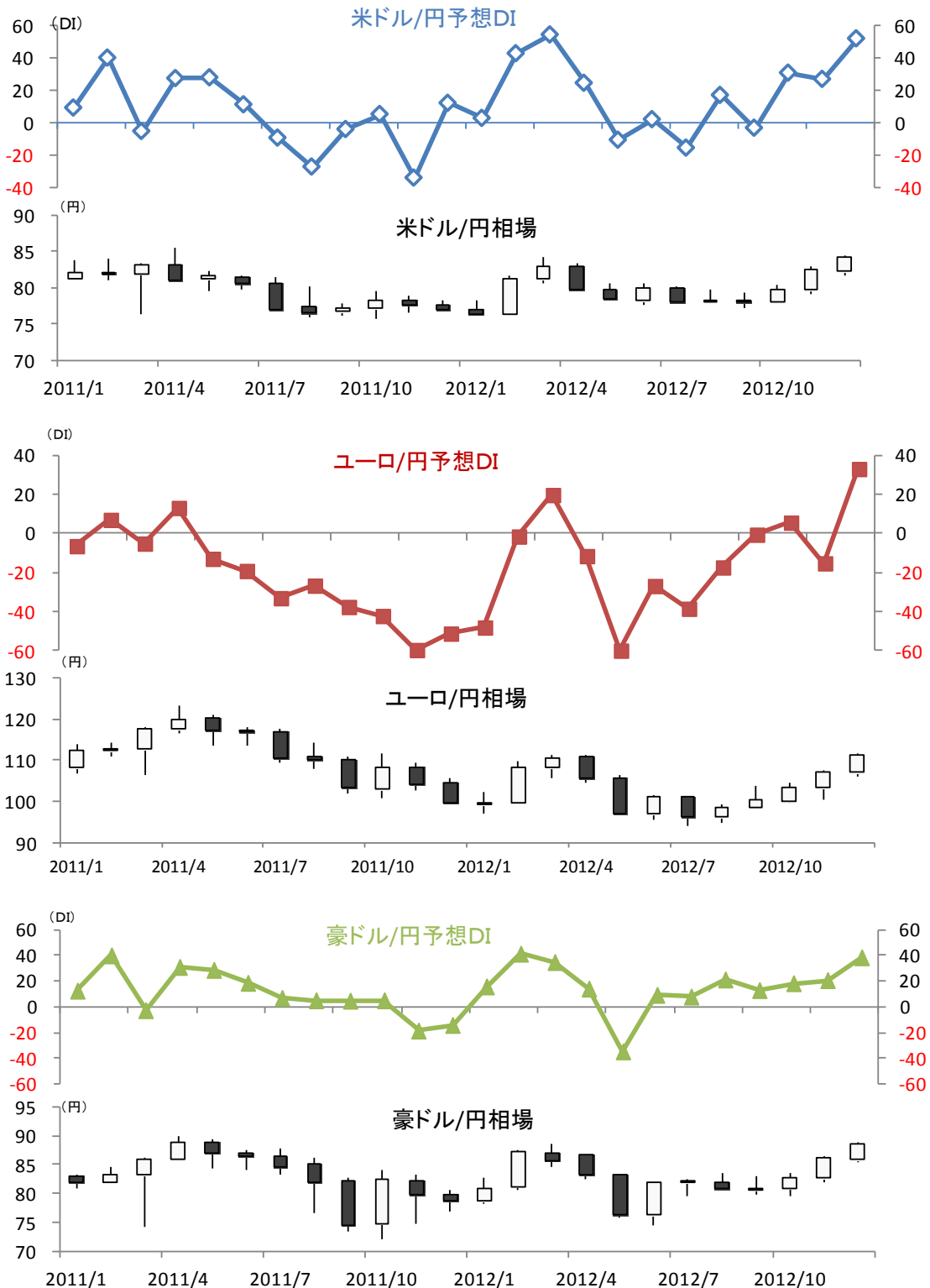
今月のもうひとつの特別質問項目として、2012年を代表する為替市場のトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)と尋ねたところ、「日本貿易赤字拡大」が17.8%と最も多く、「欧州債務懸念の後退(15.3%)」、「ドラギECB総裁『なんでもやる』発言(14.4%)」と続いた。以下、「日銀の継続的な金融緩和(12.4%)」、「中国経済の減速(11.3%)」、「米国QE3の導入(11.1%)」となった。大きく票が割れた格好ではあるが、「日本貿易赤字拡大」が最も多かった事にはやや意外感がある。貿易赤字拡大→経常収支赤字転落→中長期的な円安という連想が、円先安感を強めるFX投資家の心に響いたのだろうか。また、上位に入ったのは日本と欧州のトピックであり、米国のトピックは比較的下位となっている点も興味深い。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第43回目となりました。調査開始から3年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年末以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.2	38.7	39.2	-0.6	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.5	24.2	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com